

伝統をモードに

在ブルキナファソ日本国大使館

ブルキナファソではここ最近、かつてエリートの象徴だった西洋式ベストとネクタイに代わってブルキナファソ産の伝統的な布で作る衣装がモードスタイルになっている。ココ・ドゥンダ（Koko dunda：ココ地区の入り口という意味）と呼ばれる綿布を染めた生地と、ファソ・ダンファニ（Faso danfani：祖国の織物という意味）と呼ばれる手織りの綿布で作る服が男性にも女性にも大人気である。

ココ・ドゥンダは、伝統的に村の女性が仕事着として着用していた服であったが、近年スタイリストの活躍によって染織技術が向上し、シックな男性用チュニックや女性用ドレスに生まれ変わった。また、ファソ・ダンファニも元々ブルキナファソの国民的衣装であったが、国際的に著名なデザイナーにも注目され、都会のスマートな正装としての地位を確立した。

かつての英雄的な革命家であるトマ・サンカラ大統領（1984－87年）は、地産地消を推進し、中でも特にファソ・ダンファニは女性の経済進出に繋がるとして、毎週金曜日に公務員にファソ・ダンファニの着用を義務付けた。サンカラの精神はその後も受け継がれ、カボレ大統領は大統領として初めてファソ・ダンファニを身に着けて公的写真を撮影した。また2017年、ティエバ首相は国の文化的アイデンティティーを守るため政令を発出し、政治家や公務員に国民的な式典ではファソ・ダンファニを着用することを奨励した。

さらに、2021年にはファソ・ダンファニとココ・ドゥンダを国内認証（ラベル）化し、ブランド化と偽造防止を定めた。この認証を得るためには、遺伝子組換えを行っていないブルキナファソ産の綿を使用し、染料の質等に関する厳しい検査を要求されるが、これによってブルキナファソ産のテキスタイルの地位が保証されることになった。

サンカラ大統領が意図したとおり、今では全国のファソ・ダンファニ手織職人5万人のうち4万人は女性で（伝統的に男性の仕事だった）、ココ・ドゥンダの染色作業も伝統的に女性の仕事であることから、こうした産業の振興は女性の経済的自立に大きく貢献している。

「高潔な（ブルキナ）の国（ファソ）」の自国産のココ・ドゥンダやファソ・ダンファニを誇らしく着る国民の姿に、アフリカに吹く明るく活気に満ちた新しい時代の風を感じる。



ココ・ドゥンダを着るブルキナファソ人